

第3章 第一次計画における取組み 成果と課題

1 家庭・地域

[読書へのきっかけづくり]

読書へのきっかけづくりとして、講習会や講演会を開催

平成20年度から22年度までは「図書館とともだち・鎌倉」との協働事業の中で、図書館と市民を結び催しや広く子どもたちと図書館を結びつける催しも企画されました。第一次計画策定を記念して、長野ヒデ子氏（鎌倉市在住絵本作家）の講演もこの協働事業の中で行われました。

中高生に向けたサービス

県立高等学校図書委員への訪問を行い、高校生がおすすめ本紹介パネルを作成し、図書館や図書館ホームページで人気投票を行うなど、読書に関する情報を中高生が発信する場を作りました。第一次計画は0歳～18歳までを対象としたものですが、これまでアプローチがしにくいと思われていた高校生と連携した企画が持てたことは、大きな成果でした。この連携が発展し、平成23年度には中学生とも連携する企画が実現できました。今後は、広く市内の中学、高等学校へとアプローチを進めていくことが課題です。そのためには、ホームページやツイッターなどを活用し、情報を発信します。

地域に対する取組み

子育てサークルなどにおはなし会やわらべうたの会を行う訪問サービスを実施し、定例化した訪問先が増えたことが大きな成果です。材木座や七里ガ浜など図書館から少し離れた地域を訪問することで、絵本に親しんでもらうきっかけづくりとなりました。また、子ども会館・子どもの家や障害児活動支援センターへの訪問サービスも定例化しています。今後は訪問サービスの充実や拡大に向けて、おはなしボランティアとの協働の進め方を模索します。

ブックスタート事業

6か月児育児教室にて、絵本の読み聞かせや図書館のPRを行いながら、絵本や子育て情報誌の入ったパックを手渡すブックスタート事業も、平成17年から始まり8年目を迎えています。イギリスで文盲の人をなくす目的で始まったブックスタートですが、日本では子どもと保護者に絵本を通じて心ふれあうひとときを持つきっかけを、地域のすべての子どもに届ける活動として始まりました。鎌倉市では、保護者と赤ちゃんが絵本を通して楽しい時間を持つことを目的としています。継続事業として順調に支持を受

け、ブックスタートで配付した手さげ袋を持って図書館に来館する親子も多く見受けられるようになりました。市民健康課、こどもみらい課と協働で行っている事業ですが、今後も継続して実施できるよう、努力していきます。

(※ブックスタートでは一人ひとりに手渡しているのに、配付という漢字を使っています。)

平成23年度ブックスタート参加状況

育児教室会場	6か月児	保護者	合計
鎌倉生涯学習センター	322	355	677
深沢学習センター	249	281	530
大船保育園	243	281	524
玉縄学習センター	198	229	427
参加者計	1,012	1,146	2,158
その他受取	233		233
パック受取合計	1,245		1,245
対象者(6ヶ月児)	1,270		1,270

ブックスタート参加率 参加6か月児/対象6か月児=1,012/1,270=79.7%

パック受取率 パック受取計/対象6か月児=1,245/1,270=98.0%

(平成24年12月現在)

保育園・幼稚園での絵本の読み聞かせ、本の紹介の充実

保育園・幼稚園自体で先生方による読み聞かせは活発な様子です。平成23年度から図書館の団体貸出用図書を活用して、学校や保育園・幼稚園にセットで貸出を行う「子ども読書パック」を開始しました。平成24年度には幼稚園からも依頼を受けるようになりました。今後は保育園・幼稚園と情報交換を行い、どのようなサービスが読み聞かせの充実につながるのかを検討していくことが課題です。

地域の私設図書館(地域文庫・家庭文庫)の実情把握・連携

平成20年度に広報かまくらに「地域文庫・家庭文庫を開いている方へ」という連携の依頼を掲載し、情報を収集しました。図書館では、いくつかの地域文庫に対し以前から団体貸出を行っており、平成21年度にはこの地域文庫を訪問し、実情把握・連携についての成果を得ました。

団体貸出業務の中で、毎年懇談会を行っていますので、今後もこの懇談会を通して実情把握・連携を図ります。

また、図書館ホームページでは、引き続き連携を呼びかけていきます。

年齢別登録者数

平成23年度の0～15歳の市内在住者の登録者数については、次の通りです（統計の関係で15歳までの統計となります）。

年 齢	人 口	登録者数	登録率
0～6 歳	9,367	1,968	21.01%
7～12 歳	8,820	6,193	70.22%
13～15 歳	4,151	3,790	91.30%
合 計	22,338	11,951	53.50%

（人口は「鎌倉の統計 平成23年(2011年)版」より）

[子どもに関わる施設の充実]

子育て支援センター

図書館に寄贈された絵本や除籍した育児雑誌を配布しました。

子ども会館・子どもの家・保育園

図書館に寄贈された児童書や絵本、また、除籍後まだ使用可能な児童書や絵本を配布しました。市内各図書館に寄贈された児童書の中で、特にきれいなものを選び分けて、かまくら読書活動支援センター（深沢図書館）に送り、そこから、子ども会館・子どもの家へ搬送、保育園は保育課に搬送という手法で配布を行いました。

図書館への寄贈本・図書館のリサイクル本の配布状況

配 布 先	H 2 1	H 2 2	H 2 3	合 計
子育て支援センター	30	48	—	78
子ども会館・子どもの家	377	501	321	1,199
保 育 園	—	574	563	1,137
合 計	407	1,123	884	2,414

平成23年度に新たに始まった学習パック、子ども読書パックの学校への搬送だけで車両の確保が難しいのが現状でした。今後は、子育て支援センター、子ども会館・子どもの家、保育園へ定期的に搬送できる手段がないか検討することが課題です。

[情報の収集と発信]

ブックスタートで保護者に向けて図書館の利用案内

0歳から図書館カードが作れること、授乳やおむつ替えのスペースがあることをPRしました。毎回アンケートを回収していますが、図書館への感想や要望を、業務に反映していく仕組みを作ることが課題です。

読書に関する情報を「かまくら読書活動支援センター」で収集

子ども読書関連の新聞情報などを収集しました。今後は、情報収集だけにとどまらず、使いやすく整理していくことが課題です。

図書館ホームページ

「こどもページ」「YAの部屋（中高生）」を設け、本の紹介や子どもの読書活動に関する情報を発信しました。児童関連の行事のPRについて、ツイッターも活用しました。

情報発信の場として地元メディアを活用

読書関連イベント情報やPRなど、鎌倉ケーブルテレビをはじめとする地元メディアの取材を多く受けるようになりました。PRの必要が大きいものについては早めに計画をたて、メディアに情報を流していくシステム作りが、今後の課題です。

本の紹介リスト

松岡達英氏（鎌倉市在住の絵本作家）に表紙絵を寄贈していただき、「よんでみない？～赤ちゃんに贈る絵本の紹介リスト ブックスタート版～」を作成し、ブックスタートで配付する他、図書館ホームページにも掲載しています。

「なつやすみにおすすめのほん」リストを市内国公立小学校、鎌倉女子大学初等部全児童に毎年配布しています。図書館ホームページにも掲載しました。

中高生向け本の紹介リストも作成し、各図書館で配布しました。中高生向けの本の紹介は図書館ホームページで主に行ってききましたが、紙媒体での需要も多く、本の紹介の仕方について、今後も検討します。

図書館司書と保育士、幼稚園教諭が情報交換できる場を設定

深沢保育園へ訪問サービスを行った際に、図書館職員と保育士で情報交換を行った他、年に2回、推進連絡会を開催して関連部署との情報交換を行うなかで、保育園・幼稚園の情報も収集しました。情報の収集、発信から連携につなげていくうえで、推進連絡会の果たした役割は大きく、このことが成果であったといえます。今後の課題としては、情報交換の場を無理なく設定できるようなシステム作りがあげられます。

2 学校

[読書へのきっかけづくり]

市内小・中学校全体での取組み

市内の小・中学校全体で朝の読書活動（朝読）に取り組みました。また教職員、ボランティア、学校図書館専門員、読書活動推進員によって読み聞かせ、ブックトークが行われ、児童生徒の読書へのきっかけづくりに努め、成果をあげることができました。小学校の教科書にブックトークの項目があり、小学生同士で本を紹介し合う等、学校での読書へのきっかけづくりが浸透しています。

学校図書館の活用支援、本を活用した調べ学習の実施

小学校全校に学校図書館専門員が配置され、子どもたちへ図書館の使い方や調べ学習の指導もより多く行われるようになりました。

また、学校図書館専門員、読書活動推進員が教職員と協働して調べ学習に取り組む体制が整いつつあります。市図書館でも小・中学校の調べ学習支援用にテーマごとの本をまとめて搬送貸出する「学習パック」を平成23年度から開始しました。

平成23年度の「学習パック」貸出実績は小学校11校に貸出延べ27回、中学校3校に貸出延べ7回で、一定の成果をあげることができました。学校へのアンケート調査をもとに、学習パックのテーマを増やし、より利用しやすくしていくことが今後の課題です。

学習パック(平成23年度貸出状況)

テーマ	利用回数/小学校	利用回数/中学校	合計
修学旅行 (日光A)	5		5
修学旅行 (日光B)	4		4
鎌倉	1	3	4
環境問題	4		4
昔の暮らし	3		3
世界の国々	2	1	3
仕事	2	3	5
福祉	3		3
戦争と平和	2		2
日本の産業	1		1
合計	27	7	34

[学校図書館]

学校図書館の蔵書数、蔵書内容の充実

蔵書数については、ほとんどの学校が学校図書館図書標準の定める冊数の8割を超えていますが、蔵書内容を見直していく必要があります。しかし、予算増加が見込めない中、予算を有効活用して、蔵書数の増加と、利用しやすい蔵書構成にしていくことが課題です。

学校資料収集方針・選定方針策定の推進

平成21年度から小・中学校図書館部会に図書館職員も随時出席し、特に図書の除籍基準についての相談を受けました。今後もこうした情報交換の場を増やしていき、サポートを継続します。

市内の全小・中学校に学校司書を配置すること

小学校については、平成23年度に学校図書館専門員が全校配置されました。

中学校については、読書活動推進員の配置にとどまっているのが現状です。学校図書館専門員を配置することが課題です。

利用しやすい学校図書館づくりや学校図書館でのテーマ展示

各校の担当の教職員と学校図書館専門員・読書活動推進員が中心となって学校図書館の整備や展示を行ってきました。

[連携]

蔵書のデータ化

調べものや蔵書管理を効率的に行うための蔵書のデータ化については、まだ、検討段階にとどまっています。データ化について、情報収集を行い、効率的に行う方法を検討し、実践につなげることが課題です。

小・中学校図書館間と市図書館との本の相互利用のための搬送手段の検討

委託化が難しく、市の公用車で図書館職員が小・中学校図書館に搬送する方法をとりました。「学習パック」「子ども読書パック」等の貸出サービスは、国公立小・中学校から依頼があり、学校までの搬送が好評で、搬送を行えたことは大きな成果でした。

しかし、今後も依頼の増加が想定され、搬送業務の体制整備が課題となります。

市図書館及び学校図書館との連携の充実

市図書館職員が学校の図書館部会に出席して教職員との情報交換を行ったり、市図書館で夏休みに行われる小・中学校教職員対象図書館実務研修や、学校図書館専門員・読書活動推進員の研修を開催して、連携のきっかけを作る等の成果をあげることができました。市図書館職員が学校に出向いて、おはなし会、ブックトークを行ったり、学習パック等を学校に搬送することでも連携を図ることができました。

* 以上は国公立小・中学校を対象にした成果と課題ですが、市内県立高等学校については、県職員の学校司書が配置され、それぞれの項目について、独自の取組みを行っています。また、私立小・中・高等学校も、学校司書のもと、独自の取組みを行っています。

国公立小・中学校以外との連携としては、平成23年度、県立高等学校へ要望に応じた本を集め貸出しました。また、図書館で作成している小学生向け「なつやすみにおすすめのほん」リストは、毎年、要望のある私立小学校にも配布しています。

3 図書館・行政

[施設]

乳幼児連れ、子どもが来館しやすい設備、空間作り

図書館にはおはなしコーナーがあり、靴を脱いで、親子でくつろぎながら、読み聞かせなどができるスペースがあります。児童コーナーは一般コーナーとは離れているので、子どもたちがゆっくりと本を選んだり、読んだりすることができます。また、図書館（地域館では行政センター内）の中に、授乳やおむつ替えのできる場所もあります。今後は、授乳やおむつ替えのできる場所をより利用しやすくすること、また、PRを強化することが課題です。

平成17年度から継続実施しているブックスタート事業の効果もあり、赤ちゃん連れの親子の来館は着実に増えています。今後も行事や展示の工夫に加え、施設面でも来館しやすい図書館をPRし、図書館職員により声をかけやすい雰囲気を作りあげていくことが重要です。

[資料]

蔵書数、蔵書内容の充実

児童書の蔵書数は、平成19年度97,356冊から平成23年度112,445冊へ増加しています（「鎌倉市の図書館」より）。

年に1度、各館の児童担当者はブックフェアに行き、本の中身を手にとって確認しながら選書をする機会を設けるなど、より良い本を子どもの手に渡せるよう検討して購入し、蔵書の充実に努めています。

[読書相談]

子どもの声を図書館サービスに活かす

子どもは今すぐ読みたい本を選びにくることが多く、リクエストをあまり行わないので、いつでも子どもたちが読みたくなるような本を用意しておくことが必要です。一日図書館員・職場体験活動・カウンター対応・施設見学時におすすめの本や学校で流行っ

ている本についてリサーチを行っています。また子ども読書週間（4月23日～5月12日）には「子どもと本の木」の展示を行い、子どもたちに好きな本のタイトルを紙に書いて、本の木に貼ってもらうなど、子どもたちの声も蔵書構成に反映させています。

資料提供の充実

本のリクエストが出たときは、発注や県内図書館からの借受などで、できるだけ早く子どもの手に渡るように努めています。

今後も子どもたちの要望や必要な資料に対してリサーチを続け、子どもたちが必要な時に手をのばせばそこに求める本があるという蔵書構成を目指していきます。

【行事】

子どもと本をつなぐ行事の充実

2・3歳児とその保護者を対象とした「おひざにだっこのおはなしかい」、4歳以上のひとりでおはなしを聞ける子どもを対象とした「おはなし会」を毎月1回市内各図書館で、職員がおはなしボランティアと協働して行っています。平成21年度からは0・1歳児とその保護者を対象とした「あかちゃんと楽しむおはなしかい」を開催しています。これは、6か月児育児教室のブックスタートから2・3歳児とその保護者向けのおはなし会までの間の親子に対する行事がなかったことから、要望に応じて実施したものです。年々回数も増やし、地域館では年2回から6回実施、平成24年度からは中央図書館では毎月行っています。

夏休みには、小学生が図書館員の仕事を体験する「一日図書館員」を行い、図書館への興味をひきたて、本や図書館を好きになってもらう工夫をしています。

職場体験活動

中学校からの依頼によるもので、中学生が授業の一環として図書館員の仕事を体験する活動です。図書館の仕事を体験することで、中学生が図書館に親しみを持ってもらえるよう指導しています。

ヤングアダルトを対象とした講座やイベント

予算の関係で作家や書店員、編集者など外部の講師を招いての企画はできませんでした。代わりに高校生参加企画として、平成21年度に県立高等学校へ図書館職員が訪問し、図書委員におすすめの本のパネルを作成してもらい、できあがったパネルを図書館や市内の書店で展示、図書館ホームページにも掲載し、人気投票を行いました。この企

画は高校生に好評で、翌年には別の県立高等学校でもパネル作りを行いました。大人にも好評で、展示した高校生のおすすめ本が図書館で多く貸し出されるという成果も生まれました。

平成23年度には、「中高生によるおはなし会」を腰越図書館で開催しました。図書館職員が市立中学と県立高等学校を訪問し、図書委員に読み聞かせの指導や選書のアドバイスを行い、実際のおはなし会を行いました。子どもたちは自分に年の近い中高生に絵本を読んでもらえるのが嬉しかった様子でした。また大人にも好評で、若い人を見守るように聞いている方がたくさんいました。何より中高生自身が本や読み聞かせに興味を持つことができる企画でした。その後、公立保育園の協力を得て、保育園で高校生によるおはなし会も開催することができました。

[訪問サービス]

子育てグループ

依頼を受けて、七里ガ浜や材木座、玉縄地域にわらべうたの会やおはなし会などの訪問サービスを行っています。

小学校

以前からおはなし会の依頼で訪問していましたが、近年は各校へ配置された学校図書館専門員・PTAボランティアによるおはなし会などが実施されるようになり、図書館へはより専門性の高いブックトークの依頼へ切り替わっています。

市内各施設

子ども会館・子どもの家や、障害児活動支援センターからもおはなし会の訪問サービスの依頼を受けて、定期的に訪問を実施しています。

中学校・高等学校

「中高生によるおはなし会」のための読み聞かせの指導のため、訪問しました。

訪問サービスは平成19年度は26回延べ933人へ実施しましたが、平成23年度には58回延べ1,559人へ実施しました（「鎌倉市の図書館」より）。

年々訪問サービスの需要は高まり、定期的に訪問する施設も増えてきました。これは、第一次計画が策定され、PRしてきた成果といえます。

[人材育成]

図書館職員の専門性の向上

神奈川県図書館協会主催の研修の中で児童奉仕サービスやヤングアダルトサービスについて扱ったものがあり、毎年その研修に参加し、スキルアップを目指しています。また職員同士でも勉強会などを行い、研鑽に努めています。

司書教諭・学校司書対象の研修・支援

毎年1～2回、教育指導課と連携し、図書館において、学校図書館専門員・読書活動推進員へ研修を行っています。

また、教育センターと調整し、教職員向けの研修も夏休み期間に行い、子どもと本をつなぐ教育の支援を行っています。

平成24年度市内小・中学校教職員対象図書館実務研修日程

1日目	平成24年7月25日(水) 《午前》図書館概要説明・館内見学 児童コーナーの本の並び方見学 鎌倉市子ども読書活動推進計画について 《午後》絵本の読み聞かせについて・読み聞かせ実習 <u>ブックトーク</u> 実演
2日目	平成24年7月26日(木) 《午前》参考郷土資料の紹介 レファレンス(参考調査)とは 《午後》学校図書館と調べ学習・調査実習
3日目	平成24年8月2日(木) 《午前》鎌倉の近代史資料について 《午後》図書の補修実習・著作権について 意見交換

読書活動を支援するボランティアの養成講座

図書館や地域でおはなしボランティアを希望する方を対象に、平成13年度から「おはなしボランティア養成講座」を開催しています。毎年20名募集し、4回連続講座として、絵本や紙芝居、わらべうた、パネルシアター、ストーリーテリングについて、図書館職員が講師となって講座を行っています。修了生は図書館で職員と協働でおはなし会などを活動する「おはなしボランティア」の登録をすることができます。平成23年度には第10期生が修了しました。また、毎年1回、おはなしボランティア養成講座修了生全員を対象に「ステップアップ講座」を開催し、おはなしボランティアのスキルアップを支援しています。

保護者・保育士・幼稚園教諭対象の絵本の読み聞かせ講座

保育士・幼稚園教諭対象の絵本の読み聞かせ講座は開催することはできませんでしたが、保護者については、個別に小学校PTAから依頼を受け、図書館職員が講師として訪問しています。保育園や幼稚園にはおはなし会のため訪問することはありましたが、保育士や幼稚園教諭による読み聞かせはすでに盛んに行われているため、要望にそった講座を検討することが必要です。本の整理についてアドバイスを求める声もあり、まずは現場の声を聞き、求められる内容について講座などを開催することが課題です。

[連携]

「かまくら読書活動支援センター」を開設

平成21年4月に開設しました。事務局を深沢図書館に置き、各図書館児童奉仕担当職員が連絡担当を兼任しています。学習パック・子ども読書パックの管理や相談などの中核を担っています。今までは各図書館で個別に受けていた相談も、事務局に集中することで、学校のニーズの把握につながり、学校とも頻繁に連絡を取り合うことで信頼関係も増すという成果がありました。

「鎌倉市子ども読書活動推進連絡会」を設置

平成21年5月に、計画の進捗状況を確認・検証する機関として設置しました。教育関係者と行政関係者から成り、年2回会議を開催。この推進連絡会を発展させ、公募による市民委員3名を加え、平成24年1月に「第二次鎌倉市子ども読書活動推進計画策定委員会」を設置しました。推進連絡会には高等学校の先生は加わっていませんが、近

年高等学校との連携も盛んになっているため、将来的には高等学校の参加も視野に入れていくことが課題としてあげられます。

小学生向け図書館活用パンフレット

「ようこそ図書館へ」を作成し、「図書館見学」や「一日図書館員」の際に、各図書館で配布しています。

ボランティア同士の情報交換の場

平成21年度から毎年「本の海サポーターズ交流会」を開催しています。「図書館とともだち・鎌倉」との市民協働事業として開催し、平成23年度からは図書館行事として開催しています。学校や地域でボランティアをしている方々が多く集まり、グループごとの事例発表や一人ひとりの読み聞かせ発表等を行い、その後情報交換の場を設けています。図書館としても学校・地域など図書館以外の場所での読み聞かせ活動について、情報を共有できる貴重な機会となっています。

保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校へのリクエストに応じた貸出サービス

絵本や読み物など団体貸出用の本を「子ども読書パック」として活用し、リクエストに応じて貸出・搬送するサービスを平成23年4月から開始しました。小学校への貸出は順調に伸び、平成24年度には幼稚園からも依頼がくるようになりました。

活用頻度の高いテーマの本をセットにした貸出サービス

平成23年4月から「学習パック」として、活用頻度の高いテーマの本をセットにして学校へ貸出するサービスも開始しました。「修学旅行（日光）」「鎌倉」「環境問題」「昔の暮らし」「世界の国々」「仕事」「福祉」「戦争と平和」「日本の産業」の9テーマで1セット40冊、4週間の一括貸出（修学旅行は20冊2週間）で、学校への搬送も図書館職員が行いました。平成24年度には「世界の国々（国別パック）」を追加しました。予算削減の傾向ではありますが、毎年少しずつでもテーマを増やしていくことが課題です。予想を超えて利用が多く、修学旅行は8セット全て貸出し、2週間後には次の学校へ搬送するという状況でした。また学習パック以外のテーマの本についても、要望に合わせて集めて貸出・搬送するサービスを行っています。多くの学校に利用されたのは搬送を図書館側で行ったことも大きな要因と考えられますので、搬送体制を整えていくことが今後の課題です。

[地域性を活かして]

子ども向け地域資料・本の紹介リストの充実

図書館では、児童向けに地域資料のパスファインダーを作成し紹介しました。これにより、子どもたちの鎌倉の調べ学習に対応しています。

図書館まつりの開催

ファンタステック☆ライブラリー（図書館まつり）で、ボランティアと協働し、行事を行いました。

鎌倉らしさを活かしたイベント

平成21年5月に「かまくら読書活動支援センター」開設記念行事として、市内在住絵本作家、長野ヒデ子氏の講演会を開催しました。また、平成23年8月には、鎌倉市図書館開館百周年記念行事として「江ノ電おもしろ教室」を開催し、小学生50名が集まりました。

[環境整備の大切さを広く伝えるために]

子ども読書の日、子ども読書週間等記念イベント開催

子ども読書の日や子ども読書週間など、図書館関連の日に、記念行事を行い、図書館のPRを行いました。

子ども読書活動推進計画のパンフレット

平成21年4月に長野ヒデ子氏に挿絵を描いていただき、「かまくら読書活動支援センターができました」というパンフレットを作成しました。平成23年には改訂版を作成し、市内の国公立小学校1年生に配布しました。

読書関連情報、イベントのPR

広報かまくら・ちらしやポスターでのPR以外に図書館ホームページを活用。平成21年10月より、図書館ホームページ内に「こどもページ」「YAの部屋」をアップし、イベントなどのPRに努めました。

図書館だよりや本のリスト

図書館だよりに児童関連記事も載せ、ホームページでも紹介。赤ちゃん向け、小学生向け、中高生向けブックリストも配布するとともに、インターネットでも配信しています。

[読書活動がしにくい子どもへ]

録音図書・大活字本

図書館では、録音図書の偕成社文庫や、大きな文字の青い鳥文庫などを購入しました。

読書活動がしにくい子どもたちへの宅配サービス・訪問サービス

図書館への来館が困難な子どもたちへのサービスとしては、特別支援学校や障害児活動支援センターへおはなし会等の訪問サービスを実施しました。また、特別支援学校の要望により、大型絵本のリサイクル本を届けました。

病院小児病棟への貸出・訪問サービス・多文化サービス

病院小児病棟への貸出・訪問サービスについては、本の消毒の問題などがクリアできず、多文化サービス（日本語以外の言語を母国語とする子どもたちへの資料収集・提供）については、鎌倉市での日本語以外の言語を母国語とする子どもたちの把握ができず、実施に至りませんでした。

読書活動がしにくい子どもたちへのサービスは、公共機関として常に考えていかなければいけないことであり、要望への受け皿を作っていくことが課題となります。